

全国大会発表奨励賞

第55回全国大会 [福岡] '24 発表奨励賞受賞者挨拶
Greeting from the Winners of Encouraging Prize

発表奨励賞受賞にあたり

何 元元

(千葉大学大学院)

現所属: 宇都宮大学



この度、日本色彩学会発表奨励賞をご選出いただき、大変光栄に存じております。選考委員の皆様、並びに学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今回発表させていただいた「肌の色変化が顔の印象に与える影響の異文化比較」の研究は、溝上陽子先生や佐藤弘美先生のご指導のもと、研究室の皆様や海外の協力機関の方々から多大なご支援をいただきました。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

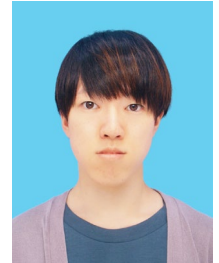
本研究では、赤味と黄味の肌色変化が顔の印象に与える影響を異文化間で比較しました。研究の結果、東アジアの被験者は赤味を帯びた肌色をポジティブに評価する傾向が強く、一方でコーカシアンの被験者は黄味がかかった肌色により好意的な印象を持つことが示されました。この結果は、文化的背景が顔の印象に影響を与えることを示唆しています。肌色に対する認識は文化や環境によって異なり、その影響をさらに検証することで、多様な文化背景を持つ人々が共に暮らすグローバルな社会において、文化的多様性に対応したアプローチが重要であることが示されました。

本研究を行うにあたり、知識不足や考察不足など、未熟であることを痛感いたしました。本賞の受賞は個人によるものではなく、良い研究機関やご指導に恵まれたからだと思っております。今後は、さらに多様な文化的視点を取り入れ、肌色や顔の印象に関する研究を発展させたいと考えています。今回の受賞を励みに、今後もより一層精進して研究に取り組んで参りたいと思います。

発表奨励賞受賞にあたり

井下 大樹

(九州大学大学院 芸術工学府)



この度は、日本色彩学会発表奨励賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。本賞に選出してくださった選考委員の方々、ポスター会場で本発表をご覧いただいた皆様に心より感謝申し上げます。また、発表にあたり、多大なご指導をいただきました須長正治先生をはじめ、日々ご助言やサポートをいただいた研究室の方々、そして、実験にご協力いただいた皆様にも、この場を借りて深くお礼申し上げます。

今回発表しました「色再現における原色の半値幅が二色覚と異常三色覚の色名応答に与える影響」は、ディスプレイの色再現における問題点のひとつであるオブザーバーメタメリズムに焦点を当て、特に、広色域化が進む中で、原色の狭帯域化が「異常三色覚」の色名応答に与える影響を検討しました。実物とそれを再現したディスプレイ上の色は同じ色に見えることが望ましいですが、「異常三色覚」では色名が変化するような大きな色の違いを知覚することが明らかになりました。さらに、「異常三色覚」のなかでも知覚した色の違いの程度が異なることや、「二色覚」では色の違いをほとんど知覚しなかったことなど、「色覚異常」の中には、程度だけでなく、被る問題にバリエーションがあることも示唆されました。

一般に、軽度の「色覚異常」の場合、日常生活において不便を感じることは少ないと報告されていますが、広色域化という技術の進歩により、逆に、軽度の「色覚異常」である「二色覚」よりも、軽度の「色覚異常」である「異常三色覚」のような人に不利益がもたらされることは不本意なことだと考えています。本研究をもとに、異常三色覚でも違和感なく使用できる広色域の色再現システムを実現するような方策を模索してまいります。

本研究は、被験者数や実験データの議論、さらなる展開についてなど、まだ多くの課題が残されています。今回の受賞を励みにして、今後もより一層精進して研究に取り組んでまいります。